



鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

発行:2011年8月15日
発行責任者: 特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守



新中川病院検査課として出来ること

～新たな試みに挑戦していく～

新中川病院 検査課長 櫻井 郁男

新中川病院は今年で25周年を迎え、新中川病院に勤務して早いもので23年を迎えました。ここまで無事こられたのも、ひとえに諸先輩、同僚に恵まれ、熱い指導、惜しみのない協力の賜物だと思います。

【検査課の簡単な自己紹介】

数多くある臨床検査項目の中から、当検査課は特に生命維持に必要な項目を緊急検査項目として院内で行ない、猶予があるものは外注検査機関に提出しています。外注機関とは連絡を密にして、タイムリーな検査結果を取得できる体制となっています。緊急検査は採血してから30分以内に報告できるよう努力し、検査結果の精度を保つため内部精度管理はもとより、外部機関による精度管理も積極的に参加しています。また心電図検査、ホルター心電図検査、簡易聴力検査、腹部・心臓・頸部などの超音波検査も随時受け付けています。

新しい取り組みとして、春の職員健康診断時にオプション検査として、希望者にペプシノゲンⅠⅡという検査を行ないました。この検査は胃粘膜の健康状態を見る検査で、多説ありますが、胃癌の早期発見に有用とされています。従来の職員健康診断では胃腸系の疾患はカバーできなかったので試験的に取り入れたところ希望者は多く、結果は良好で陽性者は胃カメラなどを行うきっかけになったのではないかと思います。来年は更に精度の高い胃粘膜リスク度検査を検討しています。

【検査課の検査以外での役割】

一般企業でも言える事ですが、与えられた仕事だけこなしていれば良いという考えでは、これから先発展は望めません。病院の検査課も同様に心電図をとったり、検査結果報告書を病棟に報告したり、日常検査だけをしていけば良いとは思いません。検査課には患者様にとって大切な臨床検査データが一杯蓄積され、また検査結果を一番初めに目にするのも

検査課です。例えば、一刻も争うデータは直ちに報告しなければならないのですが、それが何かしらのエラーによる誤り（機械的、人為的）ではないか同時に考え、検査結果を報告します。そして今後の検査などをドクターにアドバイスできるよう、日々是勉強していかなければならないと思います。また患者様はもとより病院に利益、不利益に繋がることなど積極的に意見交換出来るように、部署を越えた繋がりが大切な事と思います。

① 院内感染防止委員会での役割

大学病院などでは感染制御部などが細菌、感染率などのモニタリングを行ない院内感染の状況を把握していますが、当院では、検査結果が一番身近にある検査課が細菌、感染率などのモニタリング、分析を行ないリアルタイムな感染状況を各部署に発信し、問題のある菌が検出された場合や院内感染の疑いがある場合など積極的に介入し、速やかに収束出来るよう対応策を講じています。病院スタッフ全員が院内感染に関する情報を共有、認識し院内感染防止に努めてなければなりません。今後の課題として院内感染防止委員会以外に各部署に対して現体制よりも円滑に、報告伝達、情報の共有が出来る体制を整えて行かねばならないと思います。

② 地域連携での役割

検査課としても当院のテーマである地域連携にどう携わるか今年の大きな目標です。特定健診や労働安全衛生法で定める健康診断だけではカバー出来る訳がなく、個々によって最適な項目があるはずで、検査課として地域の皆様に、疾病の早期発見の手助けが出来るよう健康診断項目を作成し、また一般の方でも理解出来る、分かり易い健康診断結果を提供出来るよう検討しています。

“千里の道も一歩から”ととにかく始めなければ先に行く事はできません。これからの医療は何か+αな考えを持って失敗を恐れずに前進していかなければならないと思います。乱筆乱文ご容赦下さい。

医療法人社団鵬友会 幹部研修会

平成23年7月22日(金)箱根ホテルの会議室に、鵬友会幹部職員約50名が参集し、今年で8回目を迎えた、幹部研修会が開催されました。研修会では、理事長をはじめ、常務理事や各施設長から出席者へ向けて、期待を込められたもの、叱咤激励するものなど、様々なメッセージが送られました。



理事長 児玉 喜直

「時には振り返って」

開催の挨拶で児玉理事長は、「前向きな創意工夫を重ね、漫然と仕事をするのではなく、時には後ろを振り返り、仕事を見つめ直して下さい。」と仕事へ取り組む姿勢を示しました。



常務理事 池島 守

「一人で仕事をしている訳ではない」

続いて池島常務理事の講話では、法人の今後の課題や、在宅医療への移行を見据えた医療・介護の将来像について述べた後、幹部職員のビジネスマナーについて触れ、「最近はやちょっとしたことでも医療事故に繋がる。日々の業務の態度が重要。」と話した上で、組織人としての対応を述べ、さらに良い組織を構成するための3つの要素を示し「職員のモ

ラル（勤労意欲）の維持向上に努めて頂きたい。」と強調しました。



新中川病院 院長
福田 千文

「地域への貢献」

福田院長は、新中川病院のこれまでの取り組みを述べ、「今後は亜急性期、長期療養に力を入れ整備していきたい。」と抱負を語り、「地域医療は、医療の一部ではなく、地域の一部であるべき。地域にどれだけ貢献できるか。」と述べました。さらに「同じことをそつなくこなすだけではいけない。新たな事に挑戦する事が大切。」と述べ、幹部職員を激励しました。

「高齢者の医療・介護の展開」

日野院長は、デイケアを新設したこと、外来と病床数を拡充していくことなど、横浜ほうゆう病院の現況を説明し、今後予想される高齢者の医療と介護の展開について「認知症は入院が長期となり、さらに在宅での対応も難しい。認知症専門病院として、この状況にどう対応していくか。」と今後の課題を述べました。



横浜ほうゆう病院 院長
日野 博昭



阿久和鳳荘 施設長
末盛 彰一

「唯一の介護施設として」

末盛施設長は、介護保険の施設の違いについて解説し、先日参加した老健大会での内容を挙げ「将来は介護中心となり、病院はそれを支える時代になる。」と介護の重要性を訴え、「リハビリ、栄養管理、口腔ケアなどのチームケアを行っていきたい。」と今後の展望を述べました。